

2019年度 卒業時アンケート集計結果

理学部

「卒業時アンケート」実施に際し、各学科のご協力をたまり、誠にありがとうございました。集計結果をご報告いたします。

このアンケートでは、卒業予定者を対象に、大学、学部、学科、それぞれの学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)について、「身についたと思いますか」という意識調査をしております。同時に、「日本女子大学で学んで良かったと思いますか?」、「学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか?」という質問をいたしました。

なお、大学、学部、学科のディプロマ・ポリシーにつきましては、その回答の平均値を経年比較しております。文言の変更がある項目については、内容の似ているものはそのまま比較を行っておりますが、新規のDPIについては、比較から外している項目もあります。また、内容に変更・結合・分離等がある項目のうち、比較が可能と判断した項目については、注釈を付して集計いたしました。自由記述箇所につきましては、学生の記載原文を記載しております。(注:2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」を選択肢としていました。)

本件につきまして、ご意見、ご質問がございましたら、大学改革推進室IR推進室までお願いいたします。

※集計結果の公表について

・集計結果は、以下の大学改革推進室HPにて閲覧いただけます(ただし、専任教職員のみ学内で閲覧可)。

※学生へのフィードバックについて

・対象学生が結果を閲覧できるのは、JASMINE-Navilにアクセス可能な「3月20日」までとなります。

・対象学生は、自身の所属学部の集計結果(PDF)を閲覧することができます。

目次

1. 理学部 (全体)	2
2. 理学部 数物科学科	4
3. 理学部 物質生物科学科	6

<2019年度回答率>

学部	学科	専攻	2019年5月1日 4年次在籍者数	回答数	回答率
家政	児童		101	93	92.1%
	食物	食物学	33	32	97.0%
		管理栄養士	48	47	97.9%
	住居	居住環境デザイン	61	52	85.2%
		建築デザイン	41	32	78.0%
	被服		102	85	83.3%
	家政経済		91	83	91.2%
計		477	424	88.9%	
文	日本文		133	114	85.7%
	英文		192	155	80.7%
	史		100	73	73.0%
	計		425	342	80.5%
人間社会	現代社会		96	90	93.8%
	社会福祉		109	70	64.2%
	教育		100	90	90.0%
	心理		87	77	88.5%
	文化		141	87	61.7%
	計		533	414	77.7%
理	数物科		87	69	79.3%
	物質生物科		100	89	89.0%
	計		187	158	84.5%
学部合計 (通学課程全体)			1,622	1,338	82.5%

1. 理学部（全体）

(回収率:84.5%)

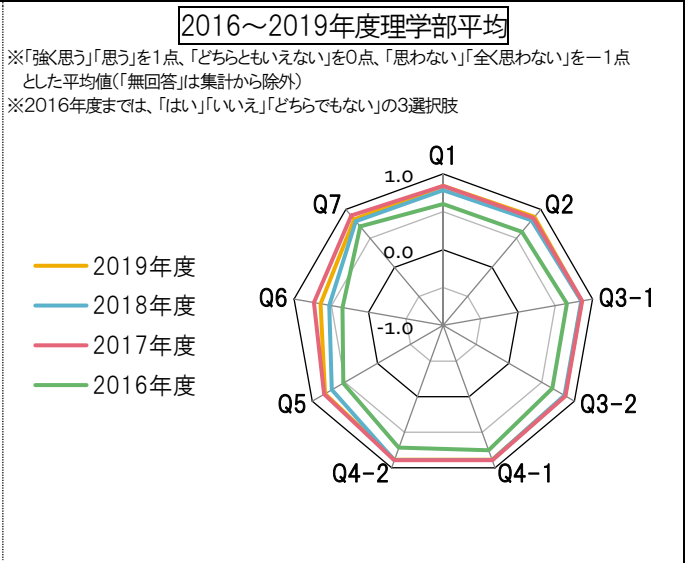
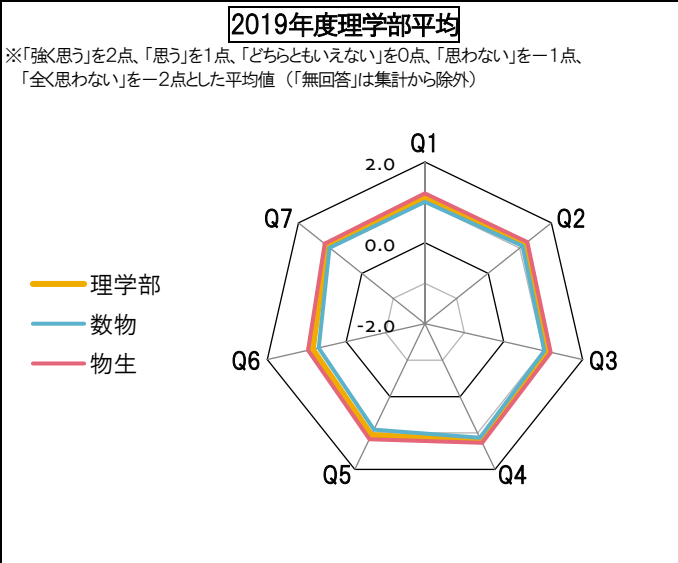
＜身についたと思いますか＞

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 理学部の学位授与方針(DP)	
Q5	自然科学についての総合的な知識に基づいて、様々な角度から系統的に考えることができる。
Q6	自然科学の各分野の専門的知識に基づいて、環境問題等社会がかかえる問題の解決に貢献できる。
Q7	論理的な思考により、問題の発見と解決に自ら努力することができる。

(人)

2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7
強く思う	46	47	42	51	40	32	43
思う	89	92	96	90	89	79	88
どちらともいえない	21	18	17	16	27	38	25
思わない	2	1	3	1	2	9	1
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	1

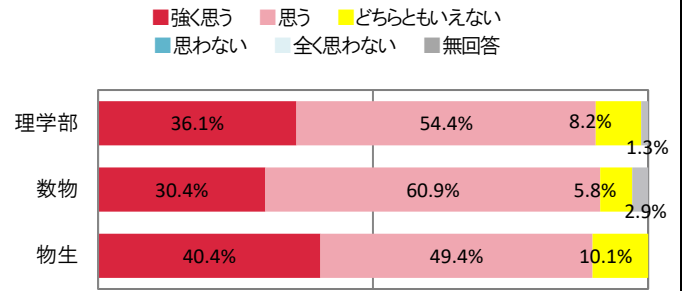
■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない
■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答



グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。	Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。	Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3-1	専門的知識と教養教育をバランスよく学び、豊かな知性と感性を身につける。	Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q3-2	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。		
Q4-1	他者に対する共感の気持ちをもつことができる。	Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
Q4-2	まわりの人びとと円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。		
Q5	自然科学についての総合的な知識に基づいて、さまざまな角度から系統的に考えることができる。	Q5	自然科学についての総合的な知識に基づいて、様々な角度から系統的に考えることができる。
Q6	自然科学の各分野の専門的知識に基づいて、環境問題など社会がかかえる問題の解決に貢献できる。	Q6	自然科学の各分野の専門的知識に基づいて、環境問題等社会がかかえる問題の解決に貢献できる。
Q7	論理的な思考により、問題の発見と解決に自ら努力することができる。	Q7	論理的な思考により、問題の発見と解決に自ら努力することができる。

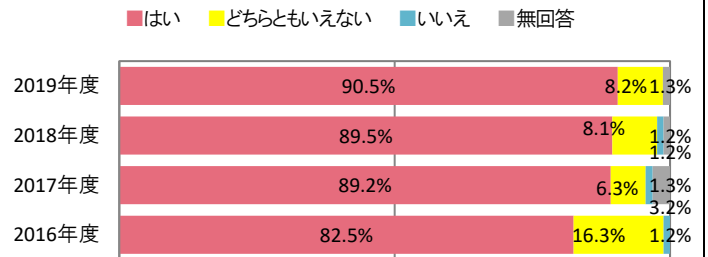
◇日本女子大学で学んで良かったと思いますか？（2013年度から調査している項目）

2019年度	理学部	数物	物生
強く思う	57	21	36
思う	86	42	44
どちらともいえない	13	4	9
思わない	0	0	0
全く思わない	0	0	0
無回答	2	2	0



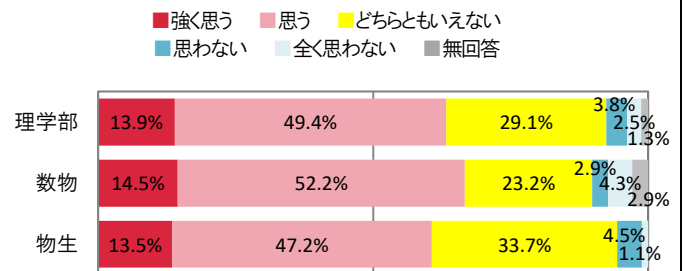
理学部	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	57	62	61	137
	思う	86	92	80	
どちらともいえない	どちらともいえない	13	14	10	27
	思わない	0	1	2	
いいえ	全く思わない	0	1	0	2
	無回答	2	2	5	0

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

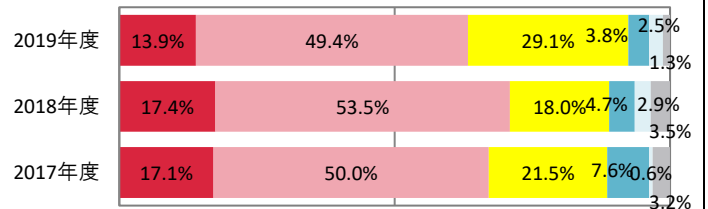


◇学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？（2017年度からの調査項目）

2019年度	理学部	数物	物生
強く思う	22	10	12
思う	78	36	42
どちらともいえない	46	16	30
思わない	6	2	4
全く思わない	4	3	1
無回答	2	2	0



理学部	2019年度	2018	2017
強く思う	22	30	27
思う	78	92	79
どちらともいえない	46	31	34
思わない	6	8	12
全く思わない	4	5	1
無回答	2	6	5



2. 理学部 数物科学科

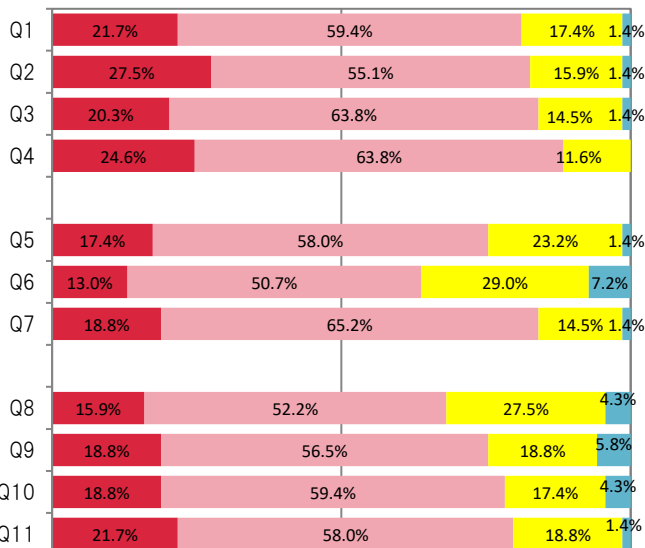
(回収率: 79. 3%)

<身についたと思いますか>

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 理学部の学位授与方針(DP)	
Q5	自然科学についての総合的な知識に基づいて、様々な角度から系統的に考えることができる。
Q6	自然科学の各分野の専門的知識に基づいて、環境問題等社会がかかえる問題の解決に貢献できる。
Q7	論理的な思考により、問題の発見と解決に自ら努力することができる。
◆ 数物科学科の学位授与方針(DP)	
Q8	数学及び物理学の基本的な概念を確実に身に付け、その専門的応用力を有し、関連する基本的な情報学的あるいは工学的知識もあわせ持つこと。
Q9	数学あるいは物理学の知識を応用し、情報化社会の諸問題を論理的に把握し判断できる能力と姿勢を持つこと。
Q10	数学あるいは物理学の素養を基として、複雑な現象に隠されている原理を発見し、数学や物理学と関連して理解・応用する努力ができること。また、新しい問題、課題に自主的に取り組む姿勢を持つこと。
Q11	数学的及び物理学的な思考力と応用力を身に付け、演習や実験等で培った知識と技能によって問題を把握表現し解決する努力ができること。

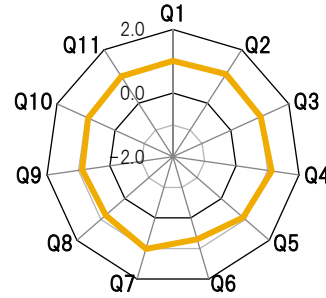
2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11
強く思う	15	19	14	17	12	9	13	11	13	13	15
思う	41	38	44	44	40	35	45	36	39	41	40
どちらともいえない	12	11	10	8	16	20	10	19	13	12	13
思わない	1	1	1	0	1	5	1	3	4	3	1
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない
■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答



2019年度数物科学科平均

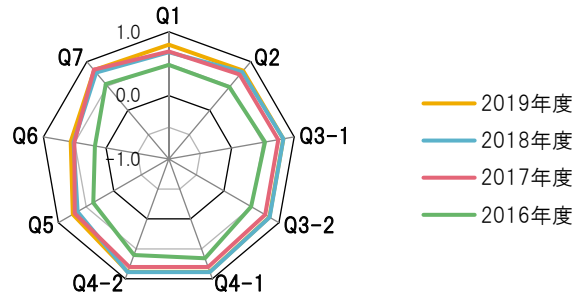
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



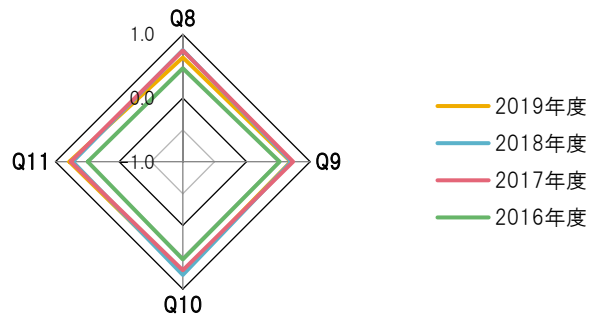
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

日本女子大学DP(1~4)・理学部DP(5~7)



数物科学科DP(8~11)

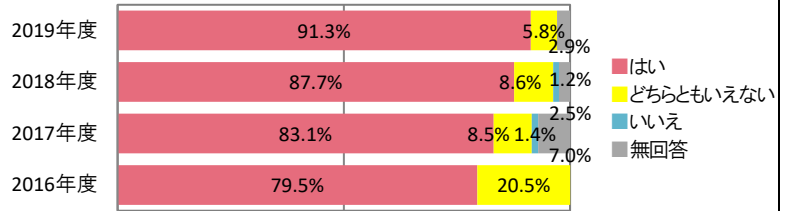
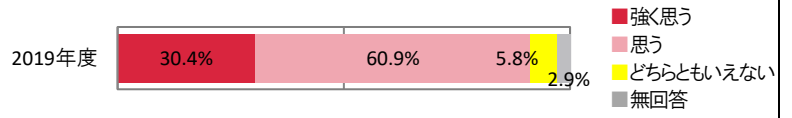


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	数学および物理学の基本的な概念を確実に身に付け、その専門的応用力を有し、関連する基本的な情報学的あるいは工学的知識もあわせ持つこと。	Q8	数学及び物理学の基本的な概念を確実に身に付け、その専門的応用力を有し、関連する基本的な情報学的あるいは工学的知識もあわせ持つこと。
Q9	数学あるいは物理学の知識を応用し、情報化社会の諸問題を論理的に把握し判断できる能力と姿勢を持つこと。	Q9	数学あるいは物理学の知識を応用し、情報化社会の諸問題を論理的に把握し判断できる能力と姿勢を持つこと。
Q10	数学あるいは物理学の素養を基として、複雑な現象に隠されている原理を発見し、数学や物理学と関連して理解・応用する努力ができること。また、新しい問題、課題に自主的に取り組む姿勢を持つこと。	Q10	数学あるいは物理学の素養を基として、複雑な現象に隠されている原理を発見し、数学や物理学と関連して理解・応用する努力ができること。また、新しい問題、課題に自主的に取り組む姿勢を持つこと。
Q11	数学的および物理学的な思考力と応用力を身に付け、演習や実験などで培った知識と技能によって問題を把握表現し解決する努力ができること。	Q11	数学的及び物理学的な思考力と応用力を身に付け、演習や実験などで培った知識と技能によって問題を把握表現し解決する努力ができること。

◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

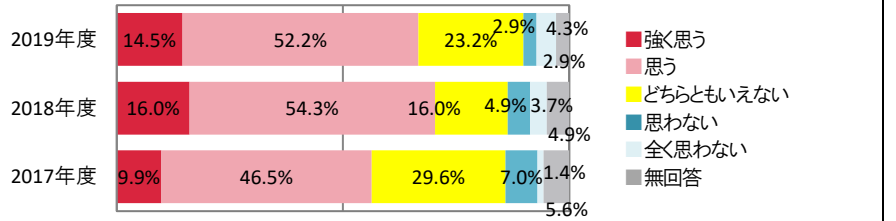
数物	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	21	25	22	58
	思う	42	46	37	
どちらともいえない	どちらともいえない	4	7	6	15
	思わない	0	0	1	0
いいえ	全く思わない	0	1	0	0
	無回答	2	2	5	0

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

数物	2019年度	2018	2017
強く思う	10	13	7
思う	36	44	33
どちらともいえない	16	13	21
思わない	2	4	5
全く思わない	3	3	1
無回答	2	4	4



3. 理学部 物質生物科学科

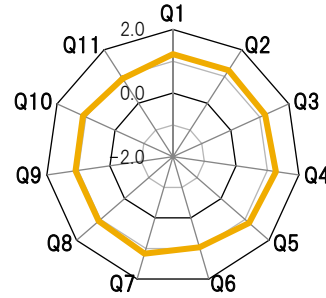
(回収率:89.0%)

<身についたと思いますか>

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 理学部の学位授与方針(DP)	
Q5	自然科学についての総合的な知識に基づいて、様々な角度から系統的に考えることができる。
Q6	自然科学の各分野の専門的知識に基づいて、環境問題等社会がかかえる問題の解決に貢献できる。
Q7	論理的な思考により、問題の発見と解決に自ら努力することができる。
◆ 物質生物科学科の学位授与方針(DP)	
Q8	化学と生物学及びその複合領域である分子生命科学の基礎的な知識を修得し、更に、いずれかの分野の高度な学問内容及び方法を理解している。
Q9	自ら設定した課題について、化学、生物学、もしくは分子生命科学の研究方法を用いて、取り組むことができる。
Q10	自然科学的な論理的思考法を有する者として、社会における自らの役割と責任を自覚でき、それぞれの場において、ニーズに応えるべく努力できる。
Q11	化学的、生物学的及び分子生命科学の基本技術を持っており、更にそのいずれかの技術を実践の場で活用できる。

2019年度物質生物科学科平均

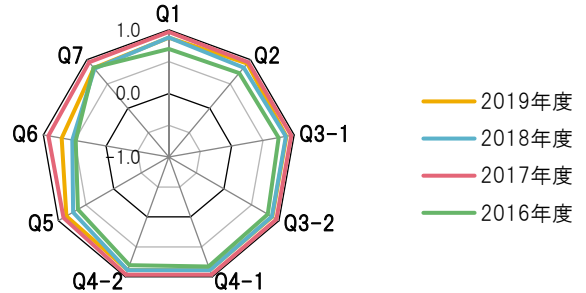
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

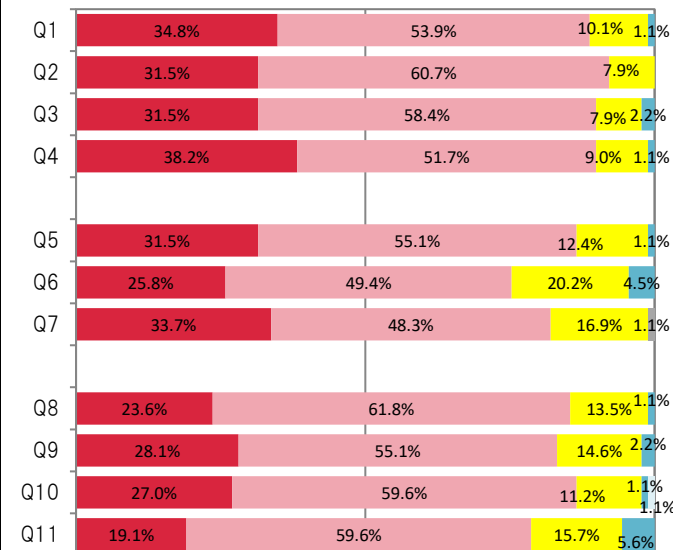
日本女子大学DP(1~4)・理学部DP(5~7)



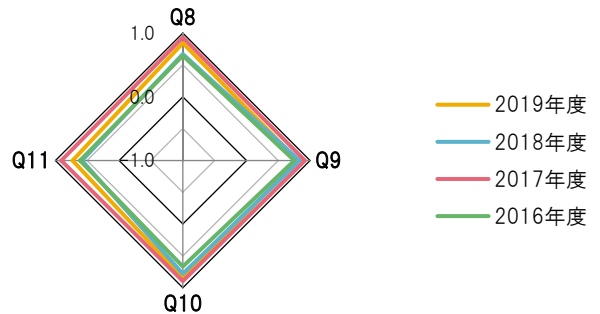
2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11
強く思う	31	28	28	34	28	23	30	21	25	24	17
思う	48	54	52	46	49	44	43	55	49	53	53
どちらともいえない	9	7	7	8	11	18	15	12	13	10	14
思わない	1	0	2	1	1	4	0	1	2	1	5
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
無回答	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

(人)

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない
■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答



物質生物科学科DP(8~11)

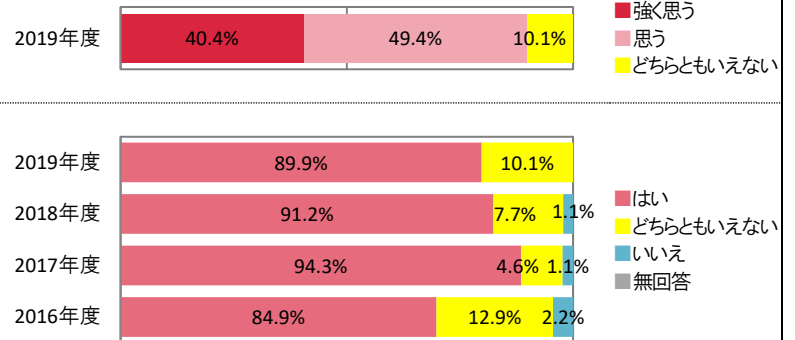


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	化学と生物学およびその複合領域である分子生命科学の学問内容及び方法を理解している。	Q8	化学と生物学及びその複合領域である分子生命科学の基礎的な知識を修得し、更に、いずれかの分野の高度な学問内容及び方法を理解している。
Q9	自ら設定した課題について、化学、生物学、もしくは分子生命科学の研究方法を用いて、取り組むことができる。	Q9	自ら設定した課題について、化学、生物学、もしくは分子生命科学の研究方法を用いて、取り組むことができる。
Q10	自然科学的な論理的思考法を有する者として、社会における自らの役割と責任を自覚でき、それぞれの場において、ニーズに応えるべく努力できる。	Q10	自然科学的な論理的思考法を有する者として、社会における自らの役割と責任を自覚でき、それぞれの場において、ニーズに応えるべく努力できる。
Q11	化学的、生物学的、分子生命科学の基本技術を持っており、それを実践の場で活用できる。	Q11	化学的、生物学的及び分子生命科学の基本技術を持っており、更にそのいずれかの技術を実践の場で活用できる。

◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

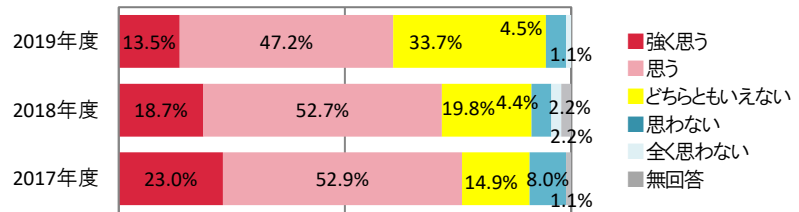
物生	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	36	37	39	79
	思う	44	46	43	
どちらともいえない	どちらともいえない	9	7	4	12
	思わない	0	1	1	
いいえ	全く思わない	0	0	0	2
	無回答	0	0	0	0

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

物生	2019年度	2018	2017
強く思う	12	17	20
思う	42	48	46
どちらともいえない	30	18	13
思わない	4	4	7
全く思わない	1	2	0
無回答	0	2	1



以上<理学部>